



幼稚園、保育所、認定こども園以外の  
無償化措置の対象範囲等に関する検討会  
ヒアリング資料

特定非営利活動法人  
森のようちえん全国ネットワーク連盟

<http://morinoyouchien.org>

# 森のようちえんについて

森のようちえんの活動は、幼児期に子どもたちの自ら成長する力を見守り、主体性を尊重します。豊かな発想、のびのびとした心と体、友だちを思いやることや、社会性や自立を獲得することを目指しています。自ら学び自己を向上させ、獲得した能力を、社会に活かそうとするグローバル社会に求められる人間像が、幼い子ども時代から育まれているのです。

## [内容]

自然の中  
での保育、  
幼児教育  
乳幼児期  
の自然体  
験活動

## [活動形態]

### ・日常型

預かりで日常  
的な保育活動  
として運営

### ・イベント型

週末や夏期冬期  
休暇などを利用  
し、不定期で  
開催

## [特徴]

- ・少人数
- ・異年齢
- ・子どもたちの  
主体的な活動
- ・対話的保育を  
通して子ども  
の理解を  
深める

## [運営者]

- ・認可・認証保育園、  
幼稚園
- ・認可外保育施設  
NPO法人  
任意団体
- ・自主運営保育
- ・自然体験活動団体
- ・自然保育を望む  
保護者

## [大切にしていること]

- ・自然の中で、子ども、親、保育者が、共に育ちあうこと
- ・自然の営みに合わせるといこと
- ・保育や福祉の仕組みを理解し、日本の保育や子育て全体に貢献すること

# 幼児教育としての効果

自然環境を保育環境・保育資源として捉えた上で、子どもの育ちを促し、子ども達の自発性を大切にしながら、様々な保育活動を行なっています。

5領域

健康

自然環境の中での  
子どもたちの姿

自然の中の様々な地形で体のバランス感覚・身のこなしが良くなる

自然の厳しさの体験から、心が強くなり、免疫力も上がる

表現

五感を通して自然を感じ、  
豊かな表現が育まれる

自然から感じたことを  
歌や絵などで表現する

自分が感じたこと、思いや考えな  
どを言葉で伝える

言語

自分がやりたいことのイメージを伝えな  
がら遊んだり、相談しながら遊びを展開  
する

人間関係

みんなで成し遂げる体験から葛藤や達成  
感を感じる

みんなで相談し、工夫していく体験を通  
し、規範作りを子どもたち自身で行ない、  
守ろうとする

環境

自然環境に密接な暮らしの手仕事や畑  
などの体験を通して、伝統文化や社会・  
生命の営みなどを感じる

自然の中の形や模様気づき、動植物  
への興味から学びへと繋がる

自然の中での保育で、非認知能力が育ち、新教育要領(保育所保育指針)に沿った保育内容が可能です。自然の中でこそ、アクティブラーニングが可能となり『生きる力』を育む幼児教育となります。また、保育従事者は皆、野外の活動だからこそ、スキルアップの意識や安全への意識が高いのも特徴です。

保育者は安全へのアセスメントを行いながら、子ども自ら危機回避ができるよう学びを促しながら安全管理を行なうことで、子どもが自分で考えて行動する能力が育まれています。

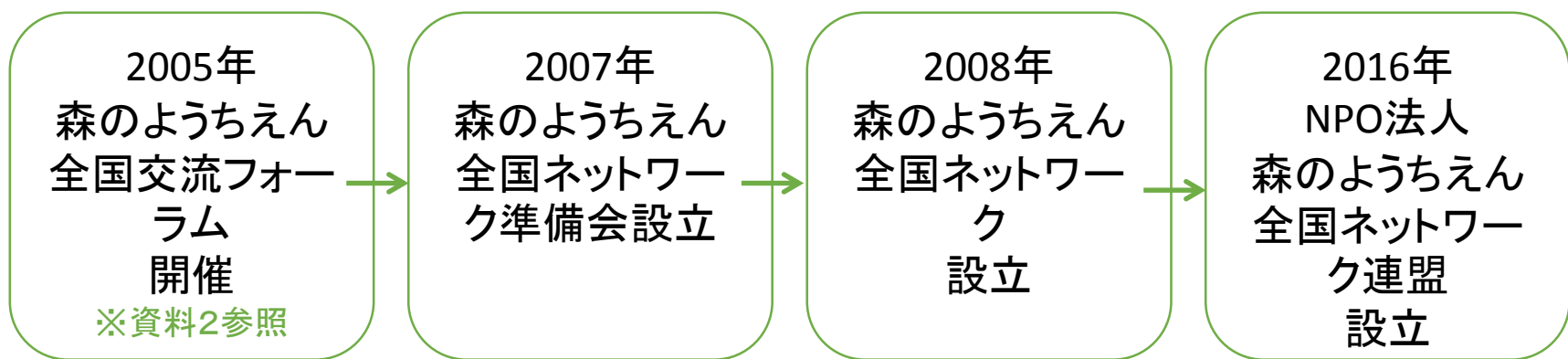
幼児期の終わりまでに育って欲しい  
10の姿

- (1)健康な心と体
- (2)自立心
- (3)協同性
- (4)道徳心・規範意識の芽生え
- (5)社会生活との関わり
- (6)思考力の芽生え
- (7)自然との関わり・生命の尊重
- (8)数量や図形標識や文字などへの関心・感覚
- (9)言葉による伝え合い
- (10)豊かな感性と表現

# 全国的な動き

ドイツにて「国連持続可能な開発のための教育(ESD)」へ森のようちえんにおける教育プログラムの提案がされ、幼児期のESDにおける新たな試みとして、日本から森のようちえん活動の情報提供もされました。国内においては、長野県は信州型自然保育認定登録制度、鳥取県は森のようちえん認証制度の創設に続き、広島県、埼玉県(秩父市)が追随し、三重県、岐阜県などでも支援に向けて動きつつあります。こうした自治体の取り組みが少子化対策、子育て世代の定住促進に繋がることへ期待されています。

※全国の行政の動きについて資料1参照



※連盟について資料3参照

自然を活用した保育や自然体験などを大切と感じる保育者や幼児教育者が増えています。昨年、2017年東京にて開催された全国交流フォーラムでは、参加者約500名の内保育士・幼児教育教諭は4割と、関心の高さが伺えました。

# 全国の行政の動き

各地での自然保育や森のようちえんの活動が盛んになってきており、各都道府県・市町村などでも支援の動きが活発になってきました。それだけニーズがあるという現れだと捉えています。

2014年  
(H26)

2015年  
(H27)

2016年  
(H28)

2017年  
(H29)

2018年  
(H30)

長野県  
信州型自然保育検討事業

長野県：信州型自然保育認定制度の創設

鳥取県：とっとり森・里山等自然保育認証制度の創設

広島県：ひろしま自然保育認証制度創設

兵庫県多可町：森のようちえん支援制度創設

東京都：森と自然を活用した保育等の推進へ予算化

埼玉県秩父市：自然保育認証制度の創設

## その他の動き

三重県：野外保育有効性調査、野外体験保育に関する事業を実施

岐阜県：「ぎふ木育」30年ビジョンの取り組みを実施

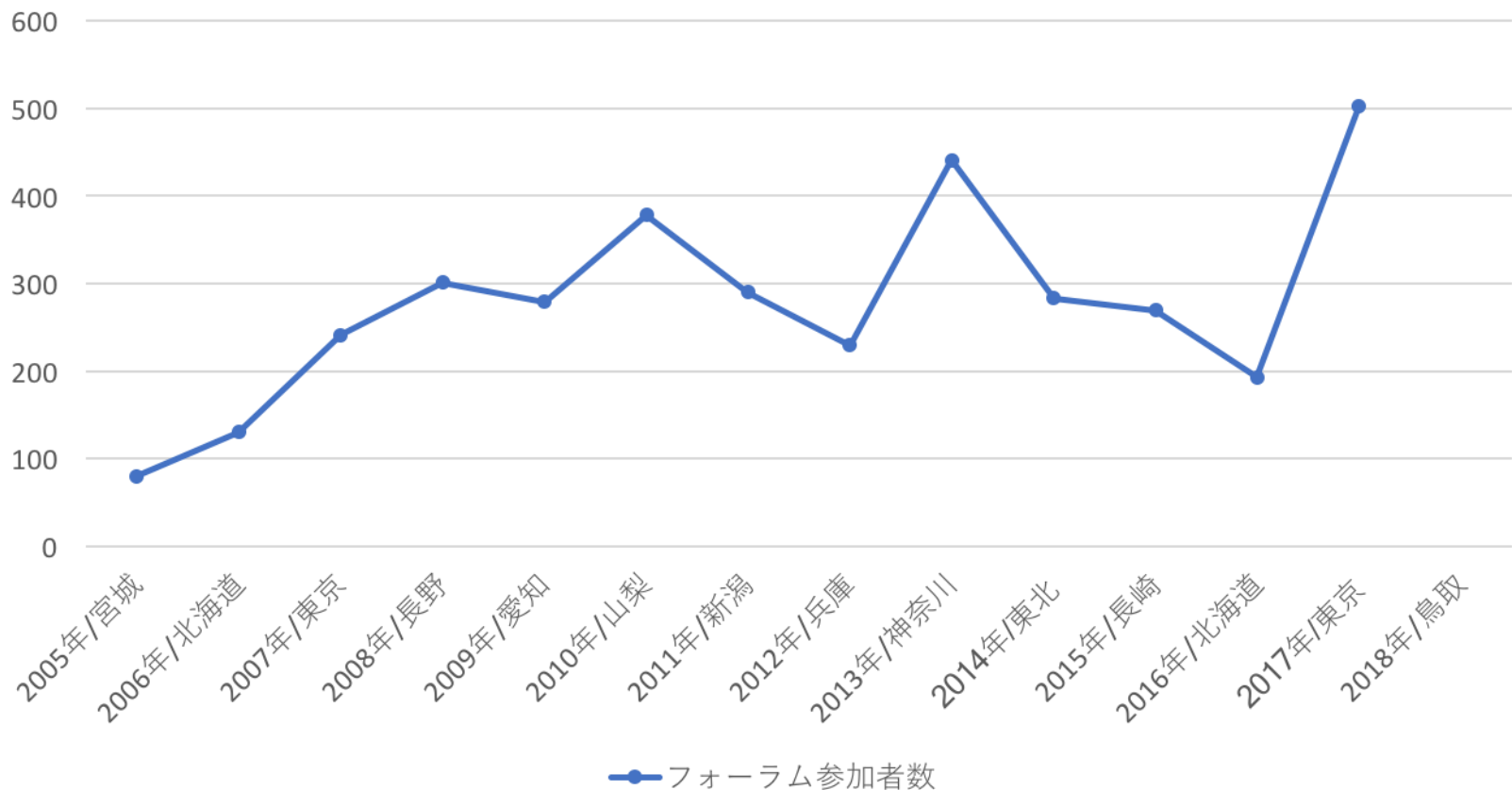
林野庁関連機関：幼児期の森林環境教育・森林ESDの促進などの取り組みを支援

地方創生・移住促進や森林保全・森林活用などの観点から、子育て世代へ向けた特色としての施策としても森のようちえんのニーズが高まっています。

# 森のようちえん全国交流フォーラム

今年で14回目となる全国交流フォーラムは、年々関心が高まっています。開催地は、任意で運営者を募り、都市部から地方まで様々な地区で開催しています。毎年、各地の多様なニーズの把握に繋がっています。また、近年は海外からの参加者も見られるようになりました。

## フォーラム参加者数推移



# 森のようちえん全国ネットワーク連盟

## 『森のようちえん宣言』

全ての子ども達にたっぷりの愛と自然とのふれあいを。  
子育てを支え合い、喜びに満ちあふれた社会の実現を目指します。  
子ども達よ、命の根っこを輝かそう。森で、海で、里で、この空の下で。

森のようちえんが全国的に広まりを見せる中、ネットワークづくりの役割が必要となり、2007年準備会が発足し、2008年11月に任意団体として設立。社会的な責任も大きくなってきたことを受け、2016年6月NPO法人化した。  
理事長 内田幸一 他14名の理事・監事で構成され、会員への情報発信や繋がり作り、人材育成などを担っている。  
2014年森のようちえん宣言を発表し、この宣言を掲げて、活動を行なっている。

### 1 事業実施の方針

「森のようちえん」の特質を活かした幼児教育、幼児の育ちの場を広め、それを担う事業者や大人たちの育成を全国の仲間たちとともに実施していく。

各地の森のようちえん関係者のネットワーク化を促進させる。

### 2 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

#### 【国内外の森のようちえん等に関する普及・啓発事業】

- ・森のようちえん普及研究会の開催
- ・森のようちえんカフェ・勉強会

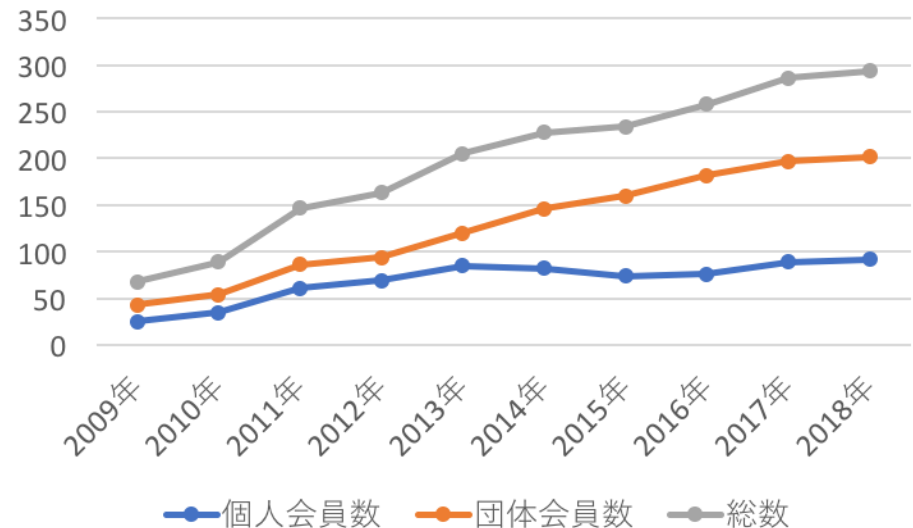
#### 【国内外の森のようちえん等に関するネットワークの構築事業】

- ・森のようちえん全国フォーラム実行委員会の補佐事業

#### 【森のようちえん等の指導者養成・認定登録事業】

- ・森のようちえん指導者養成講座

会員数推移



2018年3月5日現在会員数 個人会員82団体会員202 計284

# 利用者について

## 【利用者の特徴】

森のようちえんという保育内容を“選んで入ってきている”人が多い。森のようちえんがある地域を探して引っ越し先を決める利用者も増えている。ITやAIの開発が進む中、自然の中での保育への必要性和期待が高まっている。森のようちえん利用者は、認定区分の1号認定の要件に近い。

認定区分	子どもの年齢	要件	保育の必要量
1号認定 (教育標準時間認定)	3歳以上	教育を希望される場合	教育標準時間
2号認定 (3歳以上・保育認定)		「保育を必要とする事由」に該当し、保育所等での保育を希望する場合	保育標準時間 保育短時間
3号認定 (3歳未満・保育認定)	3歳未満		

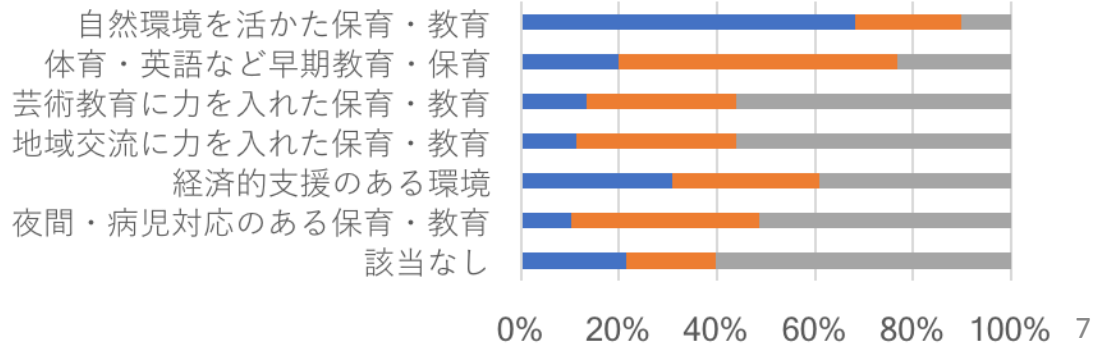
## 【利用者のニーズについて】

- ・自然の中で過ごす保育・活動を求めた保護者のニーズを満たしている。
- ・多様な働き方をしている保護者(在宅など)のニーズの受け皿にもなっている。(仕事と生活(子育て)の調和:ライフワークバランス)
- ・短時間で仕事復帰したい保護者の受け入れ先として
- ・第2子第3子の育児中、第1子の受け入れ先として
- ・子どもを伸び伸び育てたい・その子らしさを育てたい等、個々の育ちに視点を置いたのニーズ
- ・子どもが群れて遊ぶ環境を求めたニーズ(異年齢での関わり)

## 【NTTデータ経営研究所】子育て環境に関する意向調査

1. 調査対象: NTTコムリサーチ クローズド調査(\*1)  
首都圏及び全国の政令指定都市に居住する 0歳~6歳未満の子供のみを持つ男女
2. 調査方法: 非公開型インターネットアンケート
3. 調査期間: 2016年1月26日~2016年1月29日
4. 有効回答者数:1,023人

### 移住先に求める 魅力と思う保育・教育



0% 20% 40% 60% 80% 100% 7



# 森のようちえん事例(実態詳細)

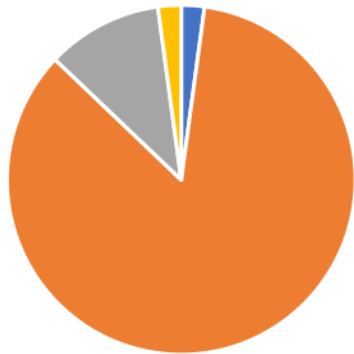
名称	NPO法人 山の遊び舎 はらぺこ	一般社団法人 森のようちえんはっぴー
代表者	阿部大輔	沼倉幸子
所在地	長野県伊那市東春近3660	千葉県南房総市下堀400-2
設立	2005年4月1日(13年)	2011年4月1日(7年)
保育理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの最善の利益を求める</li> <li>・生きのびるチカラを培う</li> <li>・自然を愛で。心豊かな主体性を形成する</li> </ul>	子どもひとり一人を尊重し、自ら成長しようとする力を引き出す
教育・保育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然とのかかわりの中で、こころとからだを育む。</li> <li>・人とのかかわりの中で愛情の豊かさに触れ、信頼感を育てる。</li> <li>・田んぼや畑活動を通して暮らしのおもしろさや豊かさを味わう。</li> <li>・自然の美しさやいのちの不思議さなど豊かな体験を通して感じる。</li> <li>・四季を思う存分味わいながら豊かな感性を育み、生きる喜びを高める。</li> </ul>	自然に親しみ豊かな心と健康を育む
フィールド	所在地の園舎を中心とした里山。畑、田んぼ等	南房総市大房岬自然公園(南房総国定公園) 事務所 兼 雨天時使用家屋あり
預かり時間	2歳児 9:00~13:00 3~5歳児 9:00~15:00	2歳児 9:30~13:30(週2日) 3~4歳児 9:00~14:00(週4日) 5歳児 9:00~14:00(週5日)
園児数	2歳児4人・3歳児7人・4歳児7人・5歳児7人 計25名	2歳児7人・3歳児6人・4歳児8人・5歳児8人 計29名
保育者数	正職員2内有資格2 非常勤1内有資格0	正職員4内有資格4 非常勤3内有資格2
保育料	2歳児28,000円・3歳児以上27,000円	2歳児15,000円・3~4歳児23,000円・5歳児26,700円
一日の流れ	9:00 登園 自由あそび 10:00 朝の会 設定活動 11:30 昼食 午後の活動 14:30 帰りの会 15:00 さようなら	9:00 登園 9:30 朝の会 10:00 散歩 その日の活動 11:30 昼食 13:00 自由遊び・散歩 絵本・振り返り・明日のお話 14:00 降園
特色	自然とのかかわりの中で心と身体を育む  保護者と保育者の共同保育	外遊びが中心の自由保育・3歳児から5歳児の混合保育 お米作りや野菜作り・子ども同士の関わりを大切にする 保護者の保育参加

# 実態調査アンケート結果

森のようちえん全国ネットワーク連盟主導でインターネット上のアンケート調査を行いました。

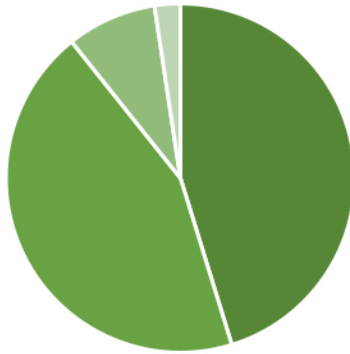
1. 調査対象: 全国の森のようちえん及び小規模の自然保育団体  
預かりで保育を日常的に行っている団体
2. 調査方法: 公開型インターネットアンケート
3. 調査期間: 2018年3月19日~2018年3月26日
4. 回答者数: 96件

保育時間



- 4時間未満
- 4～8時間未満
- 8～11時間未満
- 11時間以上

保育料

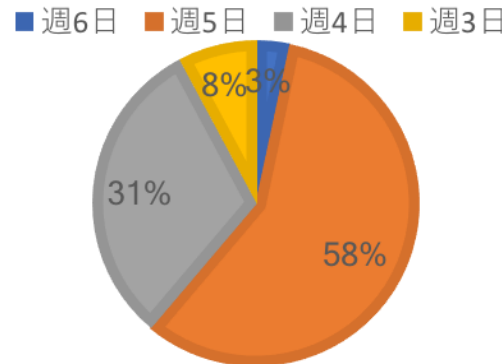


- 26,000円未満
- 26,000～36,000円未満
- 36,000～50,000円未満
- 50,000円以上

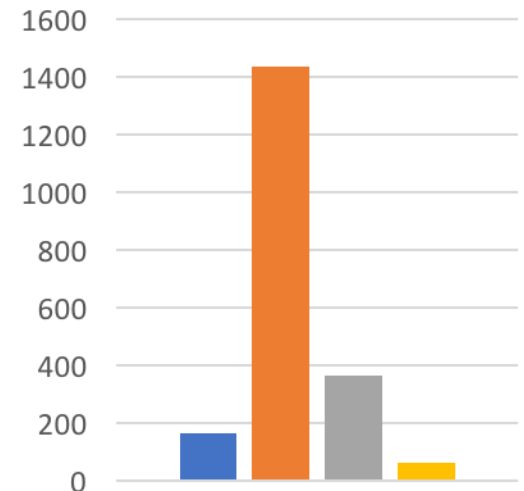
全体の85%の団体が、4～8時間未満の保育を行なっている。

全体の45%が26,000～36,000円未満  
44%が36,000～50,000円未満の保育料で行なっている。

保育日数



全体の58%が週5日の保育、31%が週4日の保育を行なっている。



子どもの数

- 週6日 163名
- 週5日 1433名
- 週4日 363名
- 週3日 60名

計2,019名の子ども達が森のようちえんに通っている。  
(注)子どもの数は、回答者数96件の合計人数である

# 無償化に関する意見

## 【前提として】

自然の中での保育は、子ども自身が様々な体験の中で“感じて・考え・行動する”というサイクルの中で育てられている為、一般的なイメージの“ただ遊んでいるだけ”ではなく、激変している時代で求められている人材が育つ場となっています。その保育内容に可能性を感じて選ばれる教育・保育の選択肢の一つです。子どもへの効果だけでなく、地域社会にも影響を及ぼしているのが森のようちえんの特徴とも言えます。私たち一つ一つは小さな団体ですが、様々な人材が必要となっているこの時代に、多様なニーズに応える教育・保育と自負しています。

## 【保護者が必要としている教育の場として】

今日、仕事や生活の多様化が進む中、多様な幼児教育・保育を求める人が増えています。こうしたニーズに呼応して、子どもを自然の中で育てること、自然の中での保育活動を望む、多くの保護者と子どもがいます。これは、森のようちえんを価値ある幼児教育として捉えられているということの現れです。

多様な幼児教育・保育についても、幼児教育無償化の対象としてご検討をお願いします。

## 【私たちが考える公平性とは】

私たち森のようちえんはどれも小規模なかたちで幼児教育・保育を行なっています。その教育内容は子どもの心と体を支える発達・保育課題を満たしています。

21世紀型の知性の構築は、自然の中での保育やその方法論で実現可能と考えています。

団体数や参加数は、他の幼児教育施設と比較すると小さいものですが、小さい規模だからこそ支援が必要です。幼児教育無償化の範囲に含んで、ご検討をお願いいたします。